

映画「どうすればよかったか？」を観て、 当事者家族の視点を考える。

精神障害者の方とも普段から関わることの多い我々障害福祉サービス事業所の職員ですが、当事者の方が発症してから精神科医療や障害福祉サービスと繋がるまでの当事者家族の苦労や状況などは図り知ることができません。

精神疾患を発症した方のご家族からみた精神科医療及び障害福祉との敷居の高さや縁遠さについて、監督が実の家族を被写体にして制作したドキュメンタリー映画「どうすればよかったか？」の観賞を通して、参加者それぞれが感じ考えてその思いを共有する場にしましょう。

プログラム

13:00 開場・受付開始
13:30 開会あいさつ
13:45 映画上映 (101分)
15:30 意見交換
16:00 閉会

日時

令和7年 8/21 (木)
13:30~16:00

定員

80名

参加費

無料 (要申込)

申込方法

裏面申込書より申込
7/25 (金) 〆切

会場

大網白里市中央公民館
1階 講堂
千葉県大網白里市大網 121-2

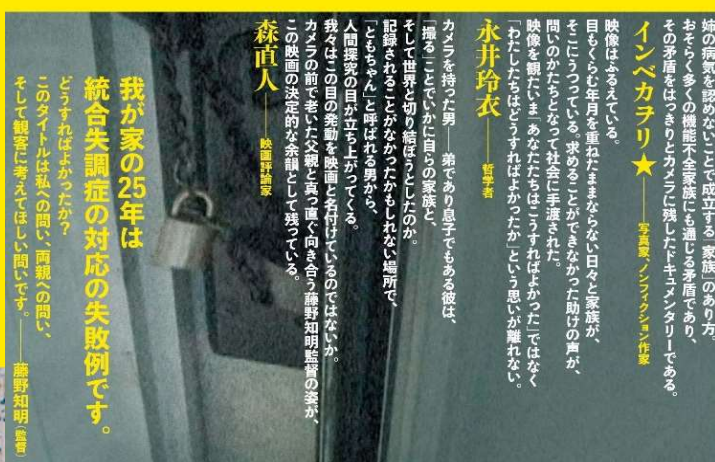
作品紹介

どうすれば
よかったか？



言いたくない 家族のこと

面見えがよく優秀な姉に統合失調症の症状が現れた
父と母は玄関に南京錠をかけ、彼女を閉じ込めた



家族という他者との20年にわたる対話の記録

面見えがよく、絵がうまくて優秀な18歳の姉。両親の影響から医師を志し、医学部に進学した彼女がある日突然、事実とは思えないことを叫び出した。統合失調症が疑われたが、医師で研究者でもある父と母はそれを認めず、精神科の受診から姉を遠ざけた。その判断に疑問を感じた弟の藤野知明 (監督) は、両親に説得を試みるも解決には至らず、わだかまりを抱えながら実家を離れた。

このままでは何も残らない——姉が発症したと思われる日から18年後、映像制作を学んだ藤野は帰省ごとに家族の姿を記録しはじめる。一家そろっての外食や食卓の風景にカメラを向けながら両親の話に耳を傾け、姉に声をかけつづけるが、状況はますます悪化。両親は玄関に鎖と南京錠をかけて姉を閉じ込めるようになり……。

20年にわたってカメラを通して家族との対話を重ね、社会から隔たれた家の中と姉の姿を記録した本作。「どうすればよかったか？」正解のない問いはスクリーンを越え、私たちの奥底に容赦なく響きつづける。

分かれあえなさとともに生きる、
すべての人へ向けた
破格のドキュメンタリー。



dosureba.com x dosureba film



お問い合わせ先
TEL 0475-77-1066 MALL admin@wako99.com
担当：坂本



障害福祉サービス事業所

マリン・ハウス



参加申込書

申込先 マリン・ハウス

FAX 0475-77-1067

事業所名	
事業所住所	
事業所所在圏域	山武 ・ 長生 ・ 海匝 ・ 印旛 ・ その他（ ）
事業所電話番号	
メールアドレス	
参加者氏名	

申し込み締め切り

令和7年7月25日(金)

お問い合わせ先 マリン・ハウス坂本 TEL 0475-77-1066 MALL admin@wako99.com

※注意事項

今回の研修は福祉関係者向けとなっており、一般の参加は受け付けておりません。

駐車場には限りがございますので、なるべく公共交通機関でのご来場をお願いします。

申し込み多数の場合は、1事業所からご参加いただける人数を制限する場合がございます。

参加決定の通知等はありません。参加を制限する場合のみ、各団体へ連絡いたします。